

## 社会で協力する育児を目指して

福江中学校3年 浅野日菜

私のお母さんは、私を育てる時に仕事を退職しました。今の日本ではまだ育児をするために女性のみが育休、退職をする場合が多いです。

私は友達と子どもについて話題になったことがあります。その時友達に私はこう言いました。「若い内に子どもは欲しいけど、自分のキャリアを優先してしまうかもしれない。」

今社会には、私と同じようなことを考える大人の女性が多くいるのではないのでしょうか。育児は男性と女性が協力するのはもちろん、社会が協力して行うものになることを私は望んでいます。

女性に負担がかかりがちだった育児も、男性や社会が協力すればハードルも下がると考えました。そのためには、育休を取りやすくする必要があります。実際に東京都では、「育休」の愛称を「育業」へ変えました。私はこのことをきっかけに、育休は休みではなく、仕事という認識が社会に根付き、男性も取りやすくなるといいなと思います。

色々なところで、育児について変化が出ています。育児が女性の負担にならないように日本に住む人間として、私も手助けができるように頑張ります。